教育研究発表会
音楽①

令和６年１１月１６日

音楽づくりにおける主体的・対話的で深い学びの追求
～つくりたい音楽の思いをもち、そのよさを見い出す児童の育成を通して～

新発田市立東豊小学校
木戸　さくら（27 年度）

主張
○「こんな音楽をつくりたい」という強い思いをもつことが、児童の主体的・対話的な学びを実現する。
○つくった音楽を「みんな」で共有し、よさを見い出し、よさと音楽を形づくっている要素を結び付けることが、児童の深い学びを実現する。

１　研究主題設定の理由

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。そのためには、児童が学ぶことに興味をもち、友達と協働し、教科の見方・考え方を働かせながら課題解決に向かう授業構成を考えることが必要である。

今までの音楽づくりの学習を振り返ってみると、音楽づくりの学習は楽しんでいるものの、何となく音やリズムを組み合わせてつくるだけで、その中に「思い」がある児童は少なかった。何でその組み合わせにしたのかを問うても「何となく」と返答があったり、自分の中で思いはあっても言語化することが難しかったりする様子が見られた。その原因として音楽を形づくっている要素についての知識が不十分であること、つくった音楽のよさと音楽を形づくっている要素を結びつけるような活動を十分に行っていなかったことだと考える。

そこで本実践では音楽づくりに対してつくりたい音楽の「思い」をもち、つくった音楽のよさを見い出せる児童の姿を目指した。

２　研究仮説

音楽づくりにおいて、音楽づくりのテーマを設定し、音楽を形づくっている要素を使うことのよさを実感する活動を行うことで、つくりたい音楽の「思い」をもち、つくった音楽のよさを見い出す児童が育つだろう。

３　研究の内容と方法

（１）児童が思いをもつためのテーマの設定

どの児童も分かる簡単なテーマを設定し、そのテーマのように聴こえる音楽をつくることをゴールとして学習を進める。

（２）音楽を形づくっている要素に気付かせるための比較聴取

１つは音楽を形づくっている要素が使われているものを、もう１つは音楽を形づくっている要素が使われていないものを聴かせる。２つの音楽を聴き比べた後、よかった方はどちらか問い、その理由を聞くことで音楽を形づくっている要素を使えば音楽づくりができそうだという見通しをもたせる。

（３）対話を促すためのツール

①音楽設計図（楽譜）と音楽のわざシール

どのように音を組み合わせたのか分かるように音楽設計図（楽譜）と、どこに音楽を形づくっている要素を使っているのか貼って分かるようにして、対話しながら音楽づくりができるようにする。音楽を形づくっている要素は「音楽のわざ」として児童に示す。

②タブレットの使用

できた音楽を録音し、客観的に自分たちの演奏を聴く時間を設定する。聴いてみて上手くいかなかったところは修正し、テーマに合う音楽をつくることができるようにする。

（４）つくった音楽を共有する時間の設定

音楽づくりをした後、全員でつくった音楽を共有する時間を設定する。つくるときに工夫したことを話したり、聴いた側が感想を伝えたりすることを通して、つくった音楽のよさを見い出していく。

そこから共通点を見付ける活動をし、よさには音楽を形づくっている要素が大きく関わっていることに気付かせる。

４　評価の方法

本実践では、主体的な姿をゴールのイメージをもち、つくりたい音楽の思いをもつこと、対話的な姿を他者との交流を通して、よりよい音楽をつくること、深い学びをつくった音楽のよさと、音楽を形づくっている要素を結び付けて考える姿と仮定する。具体的には主体的な姿をテーマを決め、どの音楽を形づくっている要素を使えばよいか考えること、対話的な姿を他者との話し合いの中でどの音楽を形づくっている要素を使うのか明確にし、テーマに合う音楽をつくること、深い学びをテーマに合う音楽になったのは、音楽を形づくっている要素を使ったことだと理解することとする。
そうした姿が実現できているかを、児童の授業の様子や振り返りから検証する。

５　実践１の研究の実際

対象：五泉市立五泉小学校　２年３組　２４名 題材：「さがして　つくろう」教育芸術社 内容：生活する中で聞こえる音から自分が気に入った音を選び、声の出し方を工夫したり、友達とつなげたり重ねたりして音楽をつくる。

（１）児童が思いをもつためのテーマ設定

「雨」を全体のテーマとして、「雨の日の音楽」をつくることを単元のゴールとして設定した。最初に雨が降っているときに外に出て実際に雨の音を聞く活動を行った。雨が地面に当たる音や、木から雨粒が落ちる音、水たまりに入ったときの音など、様々な音を見付けることができた。振り返りでは資料①のような記述が見られた。記述から、雨の音は１つではないことに気付いた様子が見られる。

次にグループで音楽づくりをするときの「雨の日の音楽」のテーマを決める活動を行った。児童たち以下のテーマを考えた。

・大雨から雷雨	・天気雨	・天気雨から小雨
・大雨から小雨	・雷雨	・小雨

テーマを決めた後、テーマに合う「雨の日の音楽」づくりを行った。

（２）音楽を形づくっている要素に気付かせるための比較聴取

音楽を形づくっている要素の「音の重なり」「反復」「音色」「強弱」を使って音楽づくりを行った。教師が「小雨から大雨」をテーマに音楽をつくり、比較聴取させた。

「音の重なり」「反復」に気付かせるために、雨の音を順番に並べた音楽（資料②-1）と音を重ねたり、繰り返したりしている音楽(資料②-2)を比較させた。どちらの方がテーマに合うか聞くと資料②-2 の方がよいと答えた。理由を問うと「音が重なっていて、色々な雨の音みたいに聴こえた」「資料②-1 だとずっと小雨みたいだから資料②-2 の方がいい」「何度も繰り返したほうが雨が降っているみたい」などと発言があり、「音の重なり」「反復」を使うとよいと確認した。

「音色」「強弱」に気付かせるために、音色と強弱を工夫していない音楽（資料③-1）と音色と強弱を工夫した音楽（資料③-2）を比較させた。どちらの方がテーマに合うか聞くと「資料③-2 がテーマに合っている」と発言があった。その理由を聞くと「声が強くなっていってだんだん雨が強くなっている様子が分かった」「最初は音が長くて、後から短くなった」「音が高くなったり、低くなったりした」と答え、そこから「強弱」と「音色」を使うとテーマに合う音楽ができそうだという見通しをもたせることができた。

（３）対話を促すためのツール

①音楽設計図と音楽のわざシール

対話しながら音楽づくりができるよう、音楽設計図とわざシールを用意した。最初に自分が選んだ雨の音を付箋に書き、音の組み合わせを考えながら設計図に貼った。資料④-1 のグループは「天気雨だから最初は雨が降っていて、最後は雨が止んでいくようにしたいな」「じゃあ最後は音の重なりを少なくする？」と話し合いをしながら音楽づくりをしていた。資料④-2 のグループは「大雨から雷雨の雷雨の部分が分かるように『ゴロゴロ』っていう音は後の方に入れよう」と思いを話しながら進める姿が見られた。

次に、音楽のわざシールを貼りながらよりテーマに合う音楽づくりを行った。資料④-2 のグループは次のように話し合いながら音楽づくりを進めた。

A 児：音を短くするのがいいと思うんだけど。
B 児：どこで使う？
C 児：ここ(中間部)がいいんじゃない？雨が弱くなるイメージで。
A 児：雷雨の部分は長くじゃない？
C 児：じゃあ雷雨の最後を長くしようよ。
B 児：それなら一つ前のところも音を長くしてもいいんじゃない？

②タブレットの使用

つくった音楽を録音し、テーマに合う音楽になっているか確認する時間を設定した。資料④-2 のグループは録音を聴きながら、「大雨から雷雨だから、ここも大きくていいんじゃないかな」と強弱の工夫を付け足す姿が見られた。

（4）つくった音楽を共有する時間の設定

音楽づくりをした後、「どの音楽のわざを使ったら、どんな雨の日の音楽ができたか」と聞いた。「強弱を使ったら小雨みたいになった」「雨がはねる感じにするために、音を高くしたり、低くしたりした」「雷が鳴っているように、音を長くした」などと発言があった。音楽を形づくっている要素を使うと、テーマに合う音楽ができることを全体で共有した。また、最後の時間に全体で「雨の日劇場」を開き、全体発表会を行った。工夫したところを話したり、聴いて感想を話したりし、音楽を形づくっている要素のよさをみんなで確かめた。

6　実践１の成果（○）と課題（▲）

○どの児童も聞いたことがある「雨」を全体のテーマとしたこと、また、グループごとに色々な雨のテーマを設定させたことで、テーマに合った音楽をつくろうと自分の思いを友達に伝えようとする姿を見ることができた。

▲振り返りでテーマと音楽を形づくっている要素を結び付けて具体的に書くことができた児童は６割だった。音楽を形づくっている要素を使うことのよさをより実感させる必要があると考える。

7　実践２の研究の実際

対象：新発田市立東豊小学校　２年２組　２９名
題材：「なきごえを つかって あそぼう」教育芸術社
内容：身の回りで聴こえてくる鳴き声を使って、声の出し方を工夫しながらつなげたり重ねたりして音楽をつくる。

実践１の課題を踏まえ次の点を修正し、実践２を行った。

・全児童がテーマと音楽を形づくっている要素を結び付けて考えられるよう、グループでの音楽づくりの前に「音楽のわざシート」を配り、どんな工夫を加えたいか個人で考える時間を設定する。
・工夫を加える前と加えた後の音楽を比較させ、音楽を形づくっている要素を使うとテーマに合う音楽ができることをより実感させる。

（1）児童が思いをもつためのテーマ設定

「犬」を全体のテーマとして、「○○の犬たちの音楽（○○は班で決めたもの)」をつくることを単元のゴールとして設定した。最初に犬の鳴き声クイズを行い、「この鳴き声は子犬と大人の犬のどちらでしょう」「どんな気持ちで鳴いているでしょう」などと問題を出した。クイズを通して、犬の鳴き声は１種類ではないこと、また、気持ちによって鳴き方が違うことに気付いた姿が見られた。振り返りでは資料⑤のように記述していた。

次に「○○の犬たちの音楽」のテーマと自分がどんな犬を担当するのか（子犬か大人の犬）を考える活動を行った。児童が決めたテーマは次の通りである。

・甘えている犬たち　・喧嘩をしている犬たち　・遊んでいる犬たち　・泳いでいる犬たち

テーマと担当の犬を決めた後、テーマに合う「○○の犬たちの音楽」づくりを行った。

（２）音楽を形づくっている要素に気付かせるための比較聴取

教師が「喧嘩をしている犬たち」をテーマに音楽をつくり、比較聴取させた。

「音の重なり」「反復」に気付かせるために、犬の鳴き声を順番に並べた音楽(資料⑥-1)と音を重ねたり、繰り返したりしている音楽(資料⑥-2)を比較させた。どちらの方がテーマに合うか聞くと資料⑦-2 の方がよいと答えた。理由を問うと「音が重なっていて、本当に喧嘩しているみたい、「１回より何回も吠えたほうがいい」と発言があり、「音の重なり」「反復」を使うとよいと確認した。

「音色」「強弱」に気付かせるために、音色と強弱を工夫していない音楽（資料⑦-1）と音色と強弱を工夫した音楽（資料⑦-2）を比較させた。どちらの方がテーマに合うか聞くと「資料⑦-2 がテーマに合っている」と発言があった。その理由を聞くと「音の高さが高かった」「強さが強かった」「激しく喧嘩をしている感じがした」など考えが出て、そこから「強弱」と「音色」を使うとテーマに合う音楽ができそうだという見通しをもたせることができた。

（３）対話を促すためのツール

①音楽設計図と音楽のわざシール＋音楽のわざシート

【実践１】での課題を受けて、グループでの音楽づくりに入る前に音楽のわざシートを配った。（資料⑧）個人で音楽のわざをどのように使うとよいか考える時間を設定した。「あまえているから弱く高くしたい」「けんかをしているから強くしよう」と個人で思いをもつ姿が見られた。グループで音楽をつくる場面では、「大人の犬だったらもう少し低くやったら？」「大人の犬は強く弱くだけど、甘えているとなると弱くかな」「怒られている感じだと強くだよ」など、自分の思いを伝えながら音楽づくりをしていた。

②タブレットの使用

【実践１】と同様につくった音楽を録音し聴く時間を設定した。「甘えているなのに何か喧嘩しているみたい」と自分たちのつくった音楽を振り返る様子が見られた。

（４）つくった音楽を共有する時間の設定

音楽づくりの後に「どの音楽のわざを使ったら、どんな犬の様子を表すことができたか」と聞いた。「子犬は音を高くして、大人の犬は低くして本物っぽくした」「音を高く強くして、楽しく遊んでいるようにした」「音を弱く、高くして甘えている感じにした」などそれぞれのグループから、音楽を形づくっている要素とテーマを結び付けた発言がたくさん出てきた。

題材のまとめとして「わんわん劇場」を開いた。【実践１】での課題を受け、音楽のわざを使うことのよさをより実感できるように発表前に工夫を加える前の音声を流し、その後発表を行った。工夫を付けて発表することが難しく、工夫を加えたことがあまり分からなかった。

８　実践２の成果（○）と課題（▲）

○音楽のわざシートを取り入れたことで、ほとんどの児童が「こうしたい」と強弱や音色の欄に○を付け、思いをもつことができた。グループでの音楽づくりでもそれを見て「同じだね」「わたしはこう思ったけれど…」とつくりたい音楽を確認し、スムーズに音楽づくりに取り組むことができた。

○振り返りでテーマと音楽を形づくっている要素を結び付けて具体的に書くことができた児童は４割で少ない結果となった。しかし、グループ活動のときやつくった音楽を共有する時間に様々な児童に「どうしてそのわざを使ったのか」と尋ねると「喧嘩している犬だから」「甘えている犬みたいにするため」と答えがすぐ返ってきた。テーマに合う音楽にするには音楽を形づくっている要素を使えばよいと理解している姿が見られた。

▲「こんな音楽をつくりたい」と思いはあっても、実際に工夫通りに言うことが難しかったり、緊張して練習の成果が生かされなかったりした。工夫通りに発表できるよう十分な練習時間を確保したり、録音したものをみんなで聴き比べたりして違いがみんなに伝わるようにするとよかった。

９　まとめ

児童にとって分かりやすいテーマ設定をしたこと、比較聴取により音楽を形づくっている要素を見付けさせ、音楽づくりの見通しをもたせたこと、グループ活動の中で友だちと話し合いながらわざシールを貼ったり、録音を聴いたりし試行錯誤をして音楽づくりをしたことで、どんな音楽をつくりたいのか考えが明確になっていったように感じる。しかし音楽づくりに対する思いはあっても、演奏技術が伴わず、音楽を形づくっている要素を使うことを諦めてしまったり、実際に工夫通りに演奏したりすることが難しい姿が見られた。今後、学年が上がるごとに演奏技術面も向上していくよう、普段の音楽の学習をスモールステップで進めたり、練習時間を確保したりしていきたい。